

調査研究彙報

◆鳥取県上原遺跡出土遺物の調査

因幡国気多郡衛か豪族居宅とみられる遺跡で、1978～82年に発掘され、土器と瓦の調査を開始。土師器には、赤色塗彩に数種類があり、瓦では軒瓦の一部が隣国の伯耆国分寺と同範であることが判明。製作技法上注目すべきものが多い。

(山中敏史)

◆御子ヶ谷遺跡出土文字資料の調査

駿河国志太郡衛とみられる御子ヶ谷遺跡出土の木簡・墨書土器の釈文や製作技法などの再調査。赤外線テレビによる調査で、新たに「税長」の文字を釈読できるなどの新知見を得た。また、墨書土器でも釈文の改訂を行い、墨書部位・器種・製作技法などにも注意して観察し、同筆関係についても検討。(山中敏史・渡辺晃宏)

◆河南省鞏義市唐三彩窯の踏査

名古屋大学名誉教授柄崎彰一氏を通じて、河南省文物考古研究所からの唐三彩窯共同調査の要請があり、5月に中国側の意向確認と現地の下見を行った。新規事業として予算要求。平成12年3月、町田所長、田辺部長、玉田と共に現地を訪ね、友好共同研究議定書を交わし、今後の調査計画を協議。(興淳一郎)

◆京都を中心にした近代日本庭園の研究

所内特別研究費の交付を受け、「京都を中心にした近代日本庭園の研究」(140ページ)を300部印刷・刊行。筆者の学位論文(1998年3月・京都大学)に加筆したもの。明治～昭和初期の京都の造園家・小川治兵衛(植治)の作庭に関する考察と同時期の日本画家の庭園への関与についての考察。(小野健吉)

◆国際会議Art' 99に参加

1999年5月17～20日、ローマ大学で行われた「Art' 99 - 第6回国際文化財非破壊測定会議-」にて講演を行った。演題「the application of high-energy X-ray CT in the examination of archaeological objects excavated in Japan」によって、X線CTに関する最新の研究を紹介した。

(村上 隆・肥塚隆保)